



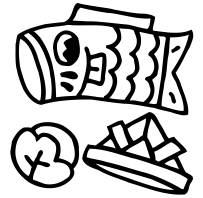
校長室だより

令和6年4月26日

教室から海が見える学校 美々津小

参観日お疲れ様でした。ありがとうございました。

いつも美々津小の子どもたちのためにありがとうございます。
参観日に向けて、大変忙しい日々だったと思います。本当にありがとうございました。連休は少しでもゆっくりしてください。



今回は、新聞の投稿をご紹介します。もしかしたら見られた方もいるかもしれませんが・・・。

先日、子どもの参観日に行き、活発な姿に心身の成長を強く感じた。参観授業が終わり、学級懇談会で担任の先生から「割り算」の授業を行った際の話聞いた。

「子どもが34人います。校外学習へ行くのに4人グループをつくれますか」という問題だったようだ。答えは「4人グループが8つで、1グループだけが2人」。それで授業は終わるはずだったが、児童の中から「あまりの2人がかわいそう」「他のグループに比べて負担が大きくなる」などの声が次々と上がり、授業はさらに白熱したようだ。担任は、児童が算数や学級活動、道徳などさまざまな教科を行き来しながら「自分たちなりの納得解」を見つけたと話していた。

私はこの話を聞き、いくら人工知能（AI）が進化しても、決して感じないであろう「人の心」がクラスで育まれていると思った。AI技術が進歩しても「あまりの2人がかわいそう」という気持ちまでは分からないだろう。児童の純粋な気持ちがあったからこそ、授業は深みを増した。

担任の懐の深さも感じた。児童は担任が自分たちの発言を必ず受け止めてくれることを知っていた。だから「あまりの2人がかわいそう」と発言できたのだ。



後日、学級通信で児童の日記が紹介されていた。日記の題は「わり算進化法」。だが、私は進化したのは割り算ではなく、子どもたちそのものだった。担任に感謝の気持ちでいっぱいだ。

来週もよろしくお願いします。